

緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点

実施予定期間：平成 21 年度～平成 25 年度
総括責任者：福田 優（福井大学 学長）

I. 概要

福井大学（医学部、医学部附属病院）と敦賀市（市立敦賀病院）の連携による社会ニーズに合った新しい医師養成システムを構築し、緊急被ばく医療に強い救急総合医養成の拠点化及び緊急被ばく医療体制の整備を図り、緊急時の対応と地域住民への被ばく医療に対する認識・理解を得て、敦賀市の地域再生計画と連携した地域医療再生の充実を図る。また、将来、若狭地域の医療機関との連携による福井県緊急被ばく医療体制を整備する。

1. 地域の現状と地域再生に向けた取組状況

全国の原子力発電所の約 3 割が集中している福井県若狭地域の中心都市である敦賀市では、原子力に関する事故等により市民の不安感が高まっている。緊急被ばく医療に強い医師を、地元の中核病院であり初期被ばく医療機関として指定されている市立敦賀病院へ配置することにより、住民の原子力施設への不安を軽減し、また、住民を主体とした防災対策の充実を図ることができる。

本学医学部附属病院及び市立敦賀病院は、平成 16 年の美浜原子力発電所 3 号機蒸気漏れ事故において、被ばく医療機関として治療に当たった実績がある。このような経験を基盤に、敦賀市の地域再生計画と連携した「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成の拠点化」及び「緊急被ばく医療体制の整備」が、敦賀市、そして将来は、若狭地域や福井県全域の再生につながると考える。

2. 地域再生人材創出構想の内容

福井大学（医学部及び医学部附属病院）と緊急被ばく医療体制の更なる充実が必要な敦賀市（市立敦賀病院）の連携による新しい医師養成システムを形成し、救急診療、総合診療、緊急被ばく医療の 3 領域に精通した「緊急被ばく医療に強い救急総合医」を創出するため、緊急被ばく医療の専門医養成コース（3 年間）と指導医養成コース（2 年間）の 2 段階において、既存の救急診療教育カリキュラム、総合診療教育カリキュラムに、緊急被ばく医療カリキュラムを上乗せするスタイルで、多施設をローテーションして研修を行うプログラムを立ち上げる。

専門医養成コースの修了者（3 年目終了時以降、毎年 4 名）は市立敦賀病院における救急総合診療及び敦賀市の緊急被ばく医療のリーダーとなることを目標とし、指導医養成コースの修了者（5 年目終了時以降、毎年 2 名）は敦賀市のみならず福井県全体のリーダーとなり、他の道県の教育にも参画できることを目標とする。

3. 自治体との連携・地域再生の観点

敦賀市は、市立敦賀病院における養成プログラム研修者の教育を支援するとともに、「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成連絡協議会」のメンバーとして、本プログラムの管理、運営に携わる。また、敦賀市の地域再生計画における救急医療の充実と原子力災害への対応整備に関し、養成された人材を登用する。緊急被ばく医療に強い救急総合医の市立敦賀病院への配置は、地域医療、救急医療体制の充実に直結するものであり、原子力施設と共存共栄できるまちづくりには必要不可欠である。本プログラムは、地域

との共生の一翼を担うものであるため、原子力施設を設置している事業者の十分な協力を得ることができる。

なお、養成された救急総合医は、緊急被ばく医療への対応について、院内の職員や敦賀市民に対する積極的な教育、啓蒙活動により、原子力への不安を払拭し、原子力発電所と共存共栄を進める敦賀市の地域再生に大きく貢献する。

4. 3 年目における具体的な目標

本プログラムの専門研修医が 3 年目には 1 2 名研修中であり、うち 4 名は 3 年目終了時に緊急被ばく医療専門医養成コースの修了者となる。このうち 2 名が市立敦賀病院に常勤の救急総合医として就職する。このことにより、敦賀市の地域再生計画にある「救急医療の充実」及び「原子力災害にも対応できる体制整備」が前進することになる。

なお、若狭地域や福井県の地域医療への意欲を持った学部学生を、今後毎年 10 名増やすことが決定している。地域医療への意欲を持つ若手医師の数を増やすために、これらの医学生に地域医療への意欲を高めるカリキュラムを実施し、本プログラムを補完する。

5. 実施期間終了時における具体的な目標

実施期間（5 年間）終了時、本養成プログラム修了者は、日本救急医学会救急科専門医、総合診療領域の学会（家庭医療学会、総合診療学会、プライマリケア学会の 3 学会が合体した学会）の認定医の資格取得、及び米国 REACT 講習修了証取得、国内における緊急被ばく医療の講習会において講師の役割が果たせることを到達目標とする。

本プログラム修了者は市立敦賀病院に雇用され、市立敦賀病院の救急総合診療部門の専属の医師として十分な臨床能力を発揮し、市立敦賀病院における緊急被ばく医療のリーダーとして病院職員の教育にあたるだけでなく、搬送関係者、行政、地域住民に啓蒙、教育活動を行い、敦賀市民の緊急被ばく医療への不安を払拭し、社会ニーズに合った人材として、地域再生に貢献する。

6. 実施期間終了後の取組

実施期間（5 年間）終了後以降は、指導医養成コースの修了者が本プログラムの教育担当者となり、敦賀市及び敦賀市内の原子力施設の協力を得て、この取り組みを継続する。

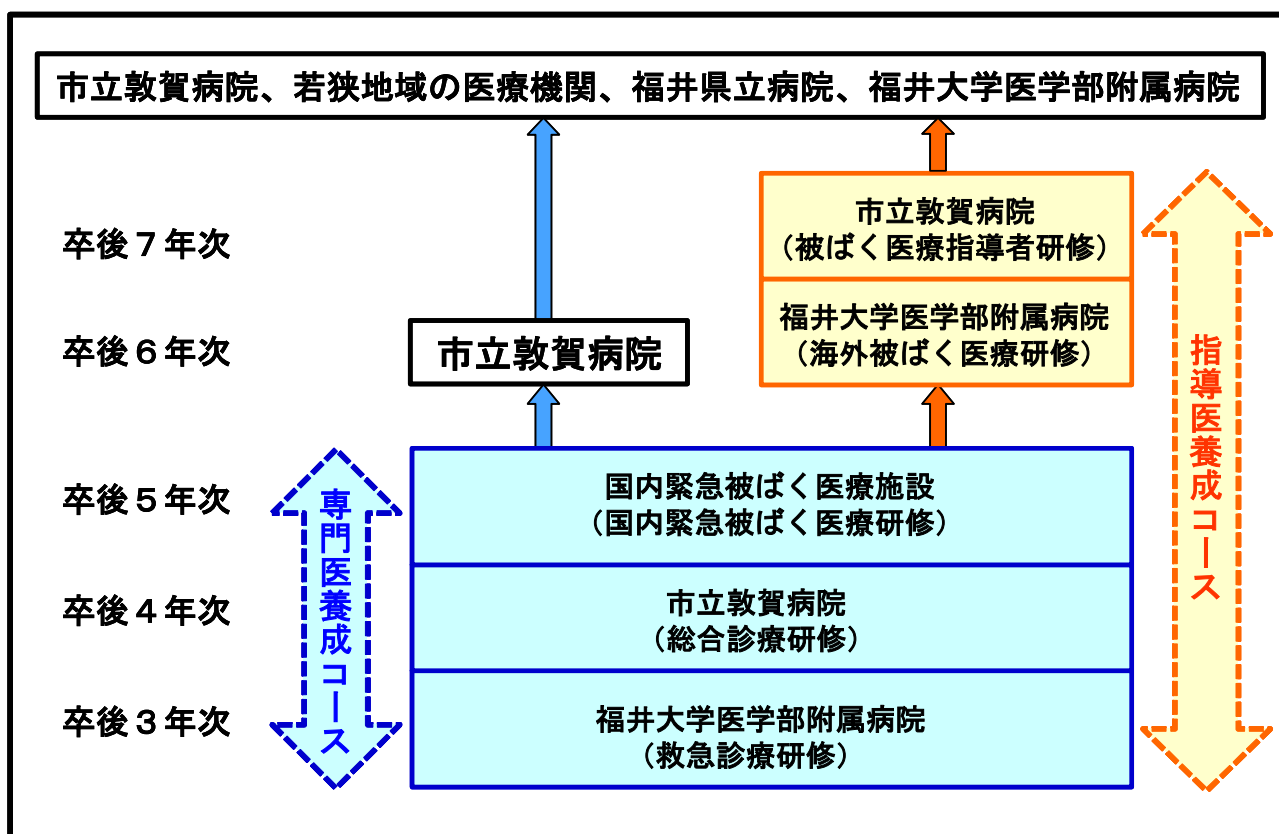
7. 期待される波及効果

本プログラムは、敦賀市で成功すれば、国内の原子力施設の約 3 割を有する福井県にとって、近隣（小浜、高浜、大飯等）の医療機関についても同様な医師確保が期待でき、更には、「福井県緊急被ばく医療体制」の整備が可能となる。また、同様な原子力施設を有する他の道県においても、初期被ばく医療機関における新しい医師像としてモデルケースとなることも目指す。

8. システム改革の実現性とその実施体制

本プログラムの総括責任者を学長とし、本院の救急部・総合診療部と市立敦賀病院、敦賀市の 3 箇所から人材養成業務の従事者及び事務担当者を選定し、養成対象者の代表を加えて、「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成連絡協議会」を設立した。その事務局を本院の臨床教育研修センターに置き、本プログラムの円滑な推進を行う。

緊急被ばく医療に強い救急総合医養成プログラム



実施体制.

氏名	所属部局・職名	提案課題における役割
◎ 福田 優	福井大学学長	総括責任者
○ 寺澤 秀一	福井大学医学部地域医療推進講座教授	研究代表者
米島 學	市立敦賀病院病院長	カリキュラムの作成、研修教育担当
木村 哲也	福井大学医学部附属病院救急部長 福井大学医学部救急医学准教授	カリキュラムの作成、研修教育担当
嶋田 喜充	福井大学医学部附属病院救急部講師	研修教育担当
小淵 岳恒	福井大学医学部附属病院救急部助教	研修教育担当
林 寛之	福井大学医学部附属病院総合診療部長(教授)	カリキュラムの作成、研修教育担当
森田 浩史	福井大学医学部救急医学助教	研修教育担当
北野 史浩	福井大学医学部地域医療推進講座助教	研修教育担当
安永 敏美	関西電力(株)高浜発電所健康管理室 産業医 福井大学医学部救急医学客員教授	カリキュラムの作成、研修教育担当
衣笠 達也	三菱重工業(株)神戸造船所 顧問医師 福井大学医学部救急医学客員教授	カリキュラムの作成、研修教育担当

養成目標人数					
緊急被ばく医療 専門医コース	4 (0)	4 (8)	4 (12)	4 (12)	4 (12)
緊急被ばく医療 指導医コース <在籍者数>				2 (4)	2 (6)

11. 委員会

緊急被ばく医療に強い救急総合医養成連絡協議会委員

所 属	職 名	氏 名
福井大学医学部	学部長	○ 上 田 孝 典
福井大学医学部附属病院	病院長	和 田 有 司
福井大学医学部地域医療推進講座	教 授	寺 澤 秀 一
三菱重工業(株)神戸造船所	顧問医師(客員教授)	衣 笠 達 也
関西電力(株)高浜発電所健康管理室	産業医(客員教授)	安 永 敏 美
市立敦賀病院	病院長	米 島 學
市立敦賀病院	事務局長	本 多 恒 夫
福井大学病院部	部 長	生 熊 道 憲
敦賀市企画政策部政策推進課	課 長	中 山 和 範
福井大学医学部附属病院総合診療部	部 長	林 寛 之
福井大学医学部附属病院救急部	部 長	木 村 哲 也
《その他医学部長が必要と認める者》		
福井大学医学部附属病院救急部	講 師	嶋 田 喜 充
《オブザーバー》		
市立敦賀病院診療部救急科	部 長	徳 永 日 呂 伸
関西電力(株)原子力事業本部	総務グループ	山 口 紘 平
敦賀市企画政策部政策推進課	課長補佐	吉 岡 昌 則
市立敦賀病院総務企画課	係 長	田 中 浩 司
福井大学医学部附属病院救急部	助 教	小 淵 岳 恒
福井大学医学部救急医学	助 教	森 田 浩 史
福井大学医学部地域医療推進講座	助 教	北 野 史 浩
福井大学総務部松岡キャンパス総務室	室 長	菅 野 吉 照
福井大学病院部総務管理課	課 長	堰 富 美 雄